

短 報

***Primula flagellaris* W.W.Sm. はチベットにも産する (大場秀章^a, 秋山 忍^b)**
Hideaki OHBA^a and Shinobu AKIYAMA^b: *Primula flagellaris* W.W.Sm. in Tibet

サクラソウ科ユキワリソウ亜属 (Subgen. *Aleuritia*) *Minutissimae* 節は約 25 種からなり、いずれの種も小型で、高さ 2–3 cm であり、東部ヒマラヤの *Primula primulina* (Spreng.) H. Hara のように高山帯の密生したコケの間に生えることが多い。 *Primula flagellaris* W.W. Sm. (Fig. 1) は葉腋から無葉の走出枝を出すことで *Minutissimae* 節の他種から容易に区別できる。この走出枝の先にはごく小さな数枚

の葉があり、着地後に新株を形成する。根生葉の裏面と萼筒外面には粉白がある。根生葉は菱状卵形で基部は柄状に伸びる。苞葉は線形、走出枝には微細な乳頭毛が生える。これまで東ヒマラヤ (シッキムとブータン) に産することが知られていたが (Smith & Fletcher 1942), 植物写真家の吉田外司夫氏はこのサクラソウをチベットの Ganden—Samye 間の標高 5000 m の地点で見出し撮影された。



Fig. 1. *Primula flagellaris* W.W.Sm. Ganden-Samye, alt. 5000 m in east Tibet. 12 July 1997. Photo by Toshio Yoshida.

Primula flagellaris W.W.Sm. is a very small tufted plants with a short rhizome and white-farinose rosulate leaves and calyces, and well distinguished from other species in sect. Minutissimae Pax in having long leafless flagellate stolons terminated in minute young leaves. Though it has been known from east Himalaya (Sikkim and Bhutan), Mr. Toshio Yoshida, a plant photographer, found it in Ganden - Samye, alt. 5000 m in east Tibet on 12 July 1997 (Fig. 1). *Primula tenella* King ex Hook.f. has stolons also. These two species are distinguished by the presence or absence of bracts; *P. flagellaris* is ebracteate. The stolons of *P. tenella* are, however, leafy and seems to be rather oc-

casional.

Smith and Fletcher (1942) wrote: "As noted in the field by Ludlow and Sherriff, *P. flagellaris* begins formations of the stolons in early August as the fruits ripen." A photograph taken by Mr. Yoshida indicates the stoloniferous reproduction beginning at the flowering stage already.

参考文献

Smith W. W. and Fletcher H. R. 1942. The genus *Primula*: section Minutissimae. Trans. Bot. Soc. Edinb. 33: 227-266.

(^a Department of Botany, University Museum, University of Tokyo, Tokyo 113-0033 東京大学総合研究博物館, ^b Department of Botany, National Science Museum, Tsukuba, Ibaraki 305-0005 国立科学博物館植物研究部)

キジムシロ属の新帰化植物、ハイキジムシロ (新称) (勝山輝男, 田中徳久)

Teruo KATSUYAMA and Norihisa TANAKA: *Potentilla anglica* Lichard, Newly Naturalized in Japan

神奈川県植物誌調査会の吉川アサ子氏が、横浜市都筑区茅ヶ崎中央の宅地造成地内の空地で、イヌムギやキゾメカミツレ、アカツメクサなどとともに、見慣れないキジムシロ属植物が生育しているのに気づき、標本を採集された (Fig. 1)。帰化によるものと考え、手許にあるヨーロッパやアメリカの植物誌や図鑑類を調べたところ、ヨーロッパ原産の *Potentilla anglica* と判明した。和名をハイキジムシロと新称し、日本新産の帰化植物として報告する。今回採集された標本をもとに、以下に特徴を記す。

多年草で、茎は地面をはって長く伸びる。根生葉は5小葉からなり、3-8 cmの柄があり、花時にも残る。小葉は倒卵形で、長さ5-15 mm、幅3-10 mm、先は円く、上半に3-6対の鋸歯があり、両面に白色の長伏毛がある。茎葉は下部のものは1-2 cmの柄があり、5小葉からなり、上部のものは、柄が短く、3小葉からなる。托葉は披針形で、長さ3-8 cm、全縁または2-3個の歯牙がある。花は葉腋に1つずつつき、細長い柄がある。がく片は4個で、卵形-披針形、副がく片はやや幅が狭く、がく片と同長である。花弁は黄色で4枚、倒卵形で長さ5-6 mm。雄しべは16

本、心皮は14-21個、花床は有毛。そう果は卵球形で平滑、長さ約1.5 mmで、花柱は落ちやすい。

Tutin et al. (1964) や Clapham et al. (1987) に詳しい記載が、Bonnier and Douin (1990) や Blamey and Grey-Wilson (1989) にカラー図版が載っている。なお、Bonnier and Douin (1990) や Gleason (1952) では、学名に *P. procumbens* Sibth. が使用されている。英名には Trailing Tormentil, Trailing five-finger, Creeping cinquefoil などがある。

P. anglica は、4弁のものが多く、時に5弁のものが混じるというが、今回採集された標本はすべて4弁のものであった。*P. anglica* に近縁のものは、ヨーロッパに *P. erecta* と *P. reptans* がある。*P. erecta* は、葉が3小葉からなり、子房が数個と少なく、*P. reptans* は、葉が常に5小葉からなり、花弁は5枚、子房は20-50個と多い。これらの種間には雑種が形成され、その雑種は *P. anglica* によく似ているが、結実しないという (Tutin et al. 1964)。今回採集された標本では果実がよく実っており、雑種の可能性はない。

P. anglica は、ヨーロッパに広く分布し、北アメリカやニュージーランドに帰化し、牧草